



「世界の恒久平和を求める県民集会」を開催 ～ひたむきな活動推進 仲間と困難克服へ～

連合福島は、8月21日（土）パルセ飯坂を会場に「核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」を開催し、コロナ感染症対策として、会場とZOOMを併用し約100の仲間が結集した。

冒頭、今野 泰連合福島会長は、「2021年1月核兵器禁止条約が発効されたものの、具体的な運用はコロナで先延ばしとなり、核保有国や「傘の下」の日本も参加しておらず、全ての国の参加なくして、核兵器廃絶は達成しない。引き続き、連合福島、原水禁、K

KKINの3団体が連携し、世論に訴えるべくひたむきな活動を推進していく。

一方で、戦後76年を迎え体験者の高齢化・風化が懸念される。コロナ禍により格差・貧困が拡大している現状において、サステナブルな社会の実現を目指し、相互扶助と包摂を基本に活動を展開していく。コロナ収束が見えない中で、徒労、疲労、孤独、疎外、不安、不満に組合員は苛まれている。本集会が、連帯・共有の時間となれば幸い。多くの仲間とこの困難を乗り越えよう」と挨拶した。

惨禍を自分ごととした運動を進める

～ナガサキ・ユース代表団～

基調講演では、ナガサキ・ユース代表団から、9期生の中村 楓さん、藤田 裕佳さんから、ZOOMで講演いただいた。「核弾頭は世界に13,130発存在し、未だに世界は核の脅威に脅かされている。核軍縮・不拡散に向け私たち一人ができることは小さいが、仲間を作って共に行動することの積み重ねが、やがて大きな力となる。体験者の高齢化など、直接話を聞ける機会の減少と合わせ、興味を持たない若い世代が増加している。あの日「きのこ雲」の下にあった日常が破壊されたことを、自分に置き換えて考える重要性を、未来につないでいかなければならない。」とお話いただきました。

講演終了後、福島から平和の祈りを込めて作成した「千羽鶴」を、画面を通し講師のお二人に託し後日、献納いただくことを確認した後、集会アピールを参加者全員で採択し終了した。



中村 楓さん



藤田 裕佳さん

長崎よりオンラインで講演いただいた
ナガサキ・ユース代表団の皆様



後援団体よりご臨席いただいた
原水禁福島県民会議 角田 政志 代表（右）
KAKKIN福島 遠藤 和也 議長（左）



全羽鶴贈呈の様子



集会アピール提案
連合福島
遠藤 徳雄 副事務局長



会場の様子

本集会の様子を連合福島 YouTube チャンネルに登録しました
多くの皆様のご視聴をお願いし、平和への思いと行動を共有しましょう

